

平成29年度 さいたま市立東岩槻小学校 自己評価書

校長 野津吉宏 印

1 学校で設定した「平成29年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学校課題研修や新さいたま市の授業づくりの取組等を通して、学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業を充実させ、基礎学力を向上させる。－教育課程、研修(教員の授業にかかわる評価、児童の学力・学習状況を含む)
- (2) 「すわっ子10の約束」や「いじめ防止対策基本方針」等に基づき、組織的に生徒指導を行い、一人ひとりのよさを生かし、豊かな人間性をはぐくむ教育を推進する。－生徒指導(いじめの防止等を含む)
- (3) 望ましい生活習慣の定着や学校体育の充実を図るなどして、心身ともに健康で、たくましい子を育てる教育を推進する。－学校保健
- (4) 「安全・安心」に関して常に危機意識をもった組織的な対応を通して、心豊かな学びを保障する教育環境を充実させる。－学校安全、施設設備
- (5) SC、SSW等や関係諸機関との連携を強化するとともに、特別な支援を要する児童に対する指導・支援を充実させることにより、組織的・機能的な特別支援教育を推進する。－特別支援教育
- (6) 学校と家庭、地域との信頼関係を基盤として、校内での情報共有、校外への適切な情報公開などを心掛け、連携・協力による希望をはぐくむ教育を推進する。－組織運営、保護者、地域住民との連携

2 評価結果について

- (1) 全国学力・学習状況調査や「よい授業」集計等のデータを活用し、算数では自力解決における様々な表現方法を指導するよう重点を図った。「よい授業」全校調査では、4つの因子全ての項目で児童の評価を、1回目同等もしくは向上させた。また、学校課題研修とも関連させ、学習意欲の向上を目指した結果、児童アンケートの「授業が楽しいと感じる」割合は昨年度よりも向上し、およそ9割が学習を肯定的にとらえている。基礎基本の確実な定着及び身に付けた力を生かした活用には課題が見られる。
- (2) 児童アンケートによると「廊下を走らないで、静かに歩く」ことや名札着用についてなどで、規範意識の向上が見られた。生徒指導及び教育相談の状況とともに、職員アンケートによる評価は良好であり、9割以上が肯定的にとらえている。「いじめ問題の早期発見、適切な対応がなされているか」については100%ができていないと回答している。あいさつなどの「心を潤す4つの言葉」や学校のきまりの定着には課題が見られる。
- (3) 基本的な生活習慣を身に付けさせるための「いきいき生活カード」を改善した。児童アンケートによると外遊びの割合は増えた。保護者アンケートによると、早寝・早起き・朝ごはんについては昨年度同等の割合で達成している。学校保健に関する職員の評価は良好であり、9割以上の肯定的な回答を得ている。運動タイムや体育の準備運動の工夫は課題があり、一層の体力向上を図る必要がある。
- (4) 安全管理、安全教育に関する評価は高く、9割以上の職員が肯定的に回答している。保護者は「学校は、事故防止への配慮をしている」ことを、職員は「点検後の修繕等は、速やかに実施されている」ことについて昨年度以上に高く評価している。特別教室や多目的室等が有効に活用され、児童がさらに落ち着いて学習や生活ができる環境整備が課題である。
- (5) SCやSSW等を活用し、教育相談・特別支援教育部会を定期的に行い、特別な支援を要する児童に対する指導・支援を充実させることができた。職員の自己評価では「校内委員会の計画的な運営、校内研修の実施等の校内支援体制が適切に整備されているか」について、昨年度よりも満足度が向上した。今後も、一人ひとりの児童に応じた教育を行うことが求められる。
- (6) どの学級でも積極的に学級だよりを発行した。保護者アンケートによると「学校は、行事や授業などの情報が、家庭によく分かるようにしている」と9割以上が評価し、昨年度よりも向上した。校内でも情報共有が一層進むよう、校務分掌組織を適切に機能させ、明確な運営、責任体制の整備を行うことが課題である。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・基礎学力・基礎体力向上に向けた、指導方法の工夫改善

習熟度別学習を確実に展開し、個に応じた指導の充実を図り、基礎学力を向上させる。また、小中一貫教育を視点とした「第1次桜山中学校区スタンダード」を実践し、児童に確実な力を身に付けるようにする。学校体育の充実を図るよう、体力向上推進委員会をより機能させ、体力テストの結果を踏まえた指導を徹底する。指導力向上のため、全教員による「一人1研究授業」を継続したり、「よい授業」4つの因子を活用したりして、学校課題研修を充実させる。

・規範意識の向上、豊かな心の育成に向けた、生徒指導体制の強化

道徳教育の充実を図り、心の教育を推進する。規範意識を向上させるために、「すわっ子10の約束」を徹底したり、「心を潤す4つの言葉」を基に豊かなかかわり合いを増やしたりする。基本的な生活習慣の定着のために、家庭との連携を深め、「いきいき生活カード」の取組を継続する。キャリア教育を年間指導計画の中に位置付け、児童が自分はどうありたいかゆめをもち、自己実現に向けて努力するよう、学校課題研修と関連して指導する。「環境は人をつくる」を合言葉に、落ち着いた教育環境の整備に努める。

・児童一人ひとりを大切にするための、個に応じた指導体制の整備・充実

特別支援教育に関する会議のもち方を工夫し、校内で適切に情報を共有し、一人ひとりの児童に応じた効果的な指導体制を構築する。きめ細かな教育の一層の推進を図るために、特別な支援を必要とする児童に対してのSSルーム(特別支援教室)における個別指導を継続する。